

“Futsal Laws of the Game” Question and Answers

## フットサル競技規則に関する質問と回答

(注)この「フットサル競技規則に関する質問と回答」は2005年にFIFAより発行されたものである。

フットサル競技規則に関する質問と回答	ページ
第1条 ピッチ (1-12)	80
第2条 ボール (1-3)	82
第3条 競技者の数 (1-32)	83
第4条 競技者の用具 (1-11)	92
第5条 主審 (1-17)	94
第6条 第2審判 (1-7)	97
第7条 タイムキーパーおよび第3審判 (1-11)	98
第8条 試合時間 (1-6)	101
第9条 プレーの開始および再開 (1-9)	102
第10条 ボールインプレーおよびボールアウトオブプレー (1)	104
第11条 得点の方法 (1)	105
第12条 ファウルと不正行為 (1-47)	106
第13条 フリーキック (1-10)	116
第14条 累積ファウル (1-9)	118
第15条 ペナルティーキック (1-14)	121
試合の勝者を決定するためのペナルティーマークからのキック (1-17)	124
第16条 キックイン (1-6)	128
第17条 ゴールクリアランス (1-5)	129
第18条 コーナーキック (1-2)	130

## 前置き

- \* (アスタリスク) は、プレーが停止されたときボールの位置に最も近いペナルティーエリアライン上の場所でドロップボールによりプレーを再開する、あるいはプレーが停止されたときにボールがあった場所から最も近いペナルティーエリアライン上の場所から間接フリーキックでプレーを再開する、または守備側チームが自分たちのペナルティーエリア内の任意の地点から行う直接フリーキックでプレーを再開する場合を表す。

## 第1条 ピッチ

1. 試合中に、クロスバーが破損し、修理または交換の方法がない場合、試合を中止とすべきか。

中止すべきである。クロスバーはゴールの一部であり、常に設置されていなければならない。

2. ピッチを破線でマーキングすることは許されるか。

許されない。

3. ゴールキーパーまたは他の競技者が足で認められていないマークをピッチに付けた場合、主審または第2審判のとるべき処置は何か？

試合開始前に審判がこのことに気づいた場合、ただちに反スポーツ的行為により反則した競技者を警告する。

試合中に主審または第2審判がこのことを行っていることに気づいた場合、ボールが次にアウトオブプレーになったときに反スポーツ的行為により反則した競技者を警告する。

4. ピッチに描かれるラインの基準はどのようなものか。

8 cm (3インチ) の幅ではっきりと見えるものでなければならない。ゴールラインは、ゴールポストとクロスバーと同じ幅となる。

5. 第1条で認められていないその他のラインがピッチに描かれていても良いか。

良いとはいえない。しかし、フットサルを競技する体育館は、通常他の多くの競技でも使用される。競技者や審判が間違わないようなものであれば、そのままにしても良い。

6. コーナーキックが行われるとき、守備側チームの競技者は、コーナーアークから5 mの地点のピッチの外側にゴールラインに対して直角に描かれたマークより近づくことができるか。

このマークは任意のものであるが、審判の目安のために用いられる。すべての守備側チームの競技者はボールがインプレーになるまで少なくともコーナーアークから5 m離れていなければならない。

7. ゴールネットは義務付けられているものか。  
義務付けられている。
8. 広告版とタッチラインとの距離は、最短どのくらいか。  
1 mである。
9. チームベンチは、どのように配置されるか。  
チーム役員と交代要員は、それぞれの守備側のハーフに設置されるベンチに座らなければならない。これにより、ハーフタイムのインターバルを利用して、チームはベンチを替わらなければならない。
10. 体育館における天井高は、最低どのくらいか。  
体育館で国際試合が行われる場合、天井高は最低 4 m 必要で、天井とピッチとの間には障害物があるてはならない。その他の試合では、競技会規則において最低高が規定される。
11. 例えば、ボールが天井あるいは吊り下げのバスケットボードに当たった場合、主審または第 2 審判の取るべき措置は何か。  
ボールがインプレー中にボールが天井に当たった場合、最後にボールに触れたチームの相手チームに与えられるキックインにより試合を再開しなければならない。キックインは、ボールが当たった天井あるいは物体下の場所に最も近いタッチライン上の地点から行う。ボールがインプレー中でなければ、競技規則の規定に従って試合を再開する。
12. タッチラインやゴールラインと観客席を仕切るフェンスとの間に最低どのくらいの距離を置くべきか。  
各競技会規則において、これらのラインと観客席のフェンスとの間の距離を規定しなければならないが、競技者と観客の安全を確保できる距離でなければならない。

## 第2条 ボール

1. 試合中に使用するために予備のボールをピッチの周辺に置いてよい。  
そのボールが第2条の要件を満たしており、主審または第2審判がその使用について管理するのであれば置いてよい。
2. 相手競技者を打つためにボールを使用した場合、ボールは物とみなされるか。  
みなされる。
3. 試合中に別のボールがピッチに入ってきた。主審または第2審判はただちにプレーを停止すべきか。  
別のボールは外部からの要因と見なされ、そのボールがプレーの妨げになる場合、主審または第2審判は試合を停止する。プレーは、試合が停止されたときにボールがあった地点でドロップボールにより再開される。それ以外の場合、主審または第2審判はできるだけ速やかにそのボールを取り除かせる。

### 第3条 競技者の数

1. 競技者が意図せずにピッチの境界線を越えた。その競技者は主審または第2審判の承認を受けずにピッチを離れたとみなされるか。

みなされない。

2. ボールをドリブルしている競技者が、相手と衝突しないため、体だけをタッチラインあるいはゴールラインを越えて出た。主審または第2審判の取るべき処置は何か。

プレーを続けさせる。ピッチの外に出たことはプレーの動きの一部とみなされる。ただし、一般的には競技者はピッチ内に留まっていることが望ましい。

3. 交代要員は、いつ競技者になるか。

交代要員が交代の手続きに従ってピッチに入った直後。

4. 競技会規定のもとで行われる試合が開始される前に、競技者が主審または第2審判に通知することなく登録されている交代要員と入れ替わった場合、この交代要員は試合に参加し続けることができるか。

できる。ただし、その競技者は主審または第2審判の承認なしにピッチに入ったことにより警告される。アドバンテージを適用しないのであれば、主審または第2審判はプレーを停止し、プレーを停止したときにボールがあった場所で相手チームの間接フリーキックにより試合を再開する。

5. 試合に出場していない交代要員の1人がピッチに走り込み相手競技者をけつた。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

主審または第2審判は試合を停止し、乱暴な行為によりその交代要員に退場を命じレッドカードを示す。プレーを停止したときにボールがあった場所で相手チームの間接フリーキックにより試合を再開する。

### 第3条 競技者の数

6. 交代されそうになった競技者がピッチを離れることを拒否した。主審または第2審判の取るべき措置は何か。

このことは主審または第2審判の管轄外なので、プレーを続けさせる。

7. 登録されていない交代要員がピッチに入ることを審判あるいはタイムキーパーが許可し、その者が得点した。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

- 7-1. 試合が再開される前に主審または第2審判がその誤りに気付いた場合、

得点は与えられない。主審または第2審判はその者にピッチから離れるように指示する。交代によって退いた競技者はピッチに戻ってもよいし、他の登録された交代要員と交代してもよい。ボールがゴールに入った地点に最も近いペナルティーエリアライン上でドロップボールによりプレーを再開する。

- 7-2. 試合が再開された後に主審または第2審判がその誤りに気付いた場合、

得点は与えられる。主審または第2審判はその者にピッチから離れるように指示する。交代によって退いた競技者はピッチに戻ってもよいし、他の登録された交代要員と交代してもよい。主審または第2審判は試合を続け、その状況を関係機関に報告する。この処置のためにプレーが停止された場合は、プレーが停止されたときにボールがあった場所で、相手チームの間接フリーキックにより試合を再開する。

(日本協会の解説：英文の回答は、「ドロップボールにより試合を再開する」としているが、これはサッカーの競技規則の質問と回答の考え方がまだ反映されていないことと判断されることから、日本語版ではこれを反映させ、「間接フリーキックにより試合を再開する」とした。)

- 7-3. 試合が終わってから、主審または第2審判がその誤りに気付いた場合、

得点は与えられる。主審または第2審判はその状況を関係機関に報告する。

8. 交代要員が主審または第2審判の承認を得ずにピッチに入り、そのチームは1人多い人数でプレーしている。ボールがインプレー中に、相手競技者がその交代要員を殴った。主審または第2審判のとるべき処置は何か。
- 主審または第2審判はプレーを停止し、乱暴な行為を犯した競技者に退場を命じ、主審または第2審判の承認を得ずにピッチに入ったことにより交代要員を警告し、ピッチから離れるように指示する。プレーが停止されたときにボールがあった場所で、相手チームの間接フリーキックにより試合を再開する。
9. No.4の競技者がNo.7の交代要員と交代しようとしている。No.4の競技者が交代ゾーンを用いてピッチから離れた。No.7の交代要員がピッチに入る前にタッチライン上にいる相手競技者を打った。主審または第2審判のとるべき処置は何か。
- No.7の交代要員に乱暴な行為により退場を命じ、レッドカードを示す。No.4の競技者は他の資格のある交代要員と交代してもよいし、あるいは交代が完了していないので交代ゾーンからピッチに戻ってもよい。
- 10-1 競技者が主審または第2審判に通告しないでゴールキーパーと入れ替わった。それに気がついた時に主審または第2審判のとるべき処置は何か。
- 10-2 後半になり、新しいゴールキーパーが自分のペナルティーエリア内で、手でボールに触れた。主審または第2審判のとるべき処置は何か？
- 両ケースとも、相手競技者および審判員のジャージ（シャツ）と異なった色で、自分の背番号がついたジャージ（シャツ）を着用しているのであれば、競技規則に違反していないので、そのままプレーを続けさせる。
- （日本協会の解説：英文の回答は、“プレーを続けさせ、ボールがアウトオブプレーになったときに警告する”としている。しかし、これはサッカーの質問と回答そのままを掲載したものであり、自由な交代が認められているフットサルの競技規則を反映していない。日本語版でこの部分を修正し、“そのままプレーを続けさせる”とした。）
11. 交代する競技者が交代ゾーンを用いピッチから離れた。しかし、交代要員は、第3条に規定されるピッチに入る手続きを無視して、交代ゾーンを用いてピッチに入る前にキックインあるいはコーナーキックを行った。これは許されるか。許されない。第3条に規定される交代の手続きがまず完了されなければならない。交代して入る競技者は、交代ゾーンを用いてピッチに入らなければならない。

### 第3条 競技者の数

#### 12. 削除

(日本協会の解説：英文の質問と回答12は、サッカーの質問と回答そのままを掲載したものであり、フットサルの競技規則に基づいていないことから、混乱をさけるため、日本語版では、12を削除した。)

#### 13. 自陣ゴールの後方でウォームアップしている交代要員は自分のチームが得点されそうだと思う、ピッチに入って、ボールをけてゴールに入るのを防いだ。主審または第2審判はどのような判定を下すべきか。

プレーを停止し、反スポーツ的行為により交代要員を警告する。プレーが停止されたときにボールがあった場所で、相手チームの間接フリーキックにより試合を再開する。交代要員は相手競技者に対してフリーキックで罰せられるファウルを意図的に犯していないことから、得点の機会を奪ったことで退場させられない。

(日本協会の解説：英文の質問と回答13は、警告の理由を“交代の手続きに違反する”こととしているが、2006年度サッカーの質問と回答に、この違反の種類は“反スポーツ的行為”であると明確にされたので、それに対応して修正を加えた。)

#### 14. フィールドプレーヤーの交代要員が交代ゾーンを用いず味方競技者と交代して、意図的に手でボールをプレーした。これを見て、あるいは第3審判またはタイムキーパーから知らされた場合、主審または第2審判のとりべき処置は何か？

プレーを停止しても相手チームにアドバンテージがないと確認後、主審または第2審判はプレーを停止し、交代ゾーン以外の場所からピッチに入った競技者を警告する。ハンドの反則が反スポーツ的行為であると判断されるのであれば、(ふたつ目の警告で)退場を命ずる。警告ひとつだけであれば、交代の手続きを正しくとるため、ピッチから出なければならない。退場が命じられた場合、ピッチには戻ることができない。試合は、ハンドの反則が犯された場所から相手チームの直接フリーキックで再開される。もし、ハンドがその競技者のチームのペナルティーエリア内で犯されたなら、ペナルティーキックでの再開となる。

15. フィールドプレーヤーの交代要員が交代ゾーンを用いずピッチに入り、ボールがインプレー中、相手競技者に反則された。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

プレーを停止し、交代ゾーン以外の場所からピッチに入ったことでその交代要員を警告する。その交代要員はピッチを離れ、正しい手続きに従って交代しなければならない。一方、その程度により、反則を行った競技者を警告、退場、あるいは罰則を適用する。この反則が最初のものであれば、試合はプレーが停止されたときにボールがあった地点で、交代の手続きに違反したチームの相手チームの間接フリーキックにより試合を再開する。

16. 交代ゾーンを用いずピッチに入った交代要員が得点をした。プレーを再開する前に主審または第2審判はこのことに気づき、第3審判あるいはタイムキーパーがこの事実を知らせた。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

得点は与えられない。主審または第2審判は、その競技者を警告し、交代を正しく行わせるためピッチから離れさせる。試合は、ペナルティーエリア内から相手チームの間接フリーキックにより再開される。

17. 上記の状況で、相手チームが得点した場合、主審または第2審判のとるべき処置は何か。

得点は与えられる。主審または第2審判は、交代の手続きを遵守せずピッチに入ったことで、違反した競技者を警告し、交代を正しく完了させるため、ピッチから離れさせる。他の味方競技者が入ることも可能である。

18. 交代によって退く競技者は交代ゾーンを用いてピッチを出なければならないか。

交代ゾーンを用いなければならない。ただし、競技者が負傷をしている場合、あるいは競技規則第4条に規定されるその他の理由がある場合、どこからピッチを離れても良い。しかし、交代要員は、正しく交代の手続きに従わなければならない。

### 第3条 競技者の数

19. ゴールキーパーがキックイン、コーナーキック、ペナルティーキックなどを行うことは許されるか。  
許される。ゴールキーパーはそのチームの競技者の1人である。
20. 試合中、ゴールキーパーが相手競技者を止めようとしてゴールから全力で走ってきた。ゴールキーパーはボールをピッチの外にけり出し、相手チームにキックインが与えられた。ゴールキーパーは勢いでピッチの外に出てしまい、ゴールキーパーが戻る前に第16条に基づきキックインが行われて得点された。あるとすれば、主審または第2審判のとるべき処置は何か。  
いかなる反則も犯されていないので、得点が与えられる。
21. 競技会規定は、キックオフの前にすべての競技者を登録しなければならないと規定している。一方のチームは5人の競技者のみを登録し、試合が開始された。プレーが開始された後に到着した他の2人の競技者は参加できるか。  
参加できない。
22. 交代要員が登録されない試合で、試合開始前に競技者が退場を命じられた場合、そのチームは、遅れて到着した1人の競技者を補充することができるか。  
競技会規定によってこのことが認められている場合は、競技者を補充することができる。
23. 試合開始前に主審に交代要員の氏名を届けたが、これらの交代要員はキックオフ後に到着した。主審は、これらの交代要員を認めるべきか。  
認めるべきである。もっとも、交代要員は試合開始後到着してもプレー可能であるが、登録されていない者についてはプレーできない。
24. 3人の競技者しかいないチームがペナルティーキックで罰せられて、その結果、1人の競技者が退場させられチームは2人の競技者のみとなった。主審はペナルティーキックを行うことを認めるべきか、あるいはキックを行う前に試合を中止すべきか。  
ペナルティーキックを行わずに試合を中止しなければならない。国際評議会の見解においては、いずれかのチームの競技者が3人未満である場合、試合を続けるべきでないとしている。

25. 競技者が3人しかいないチームから1人の競技者が治療を受けるためにピッチから離れた。主審または第2審判のとりべき処置は何か。

その競技者が交代するまで、もし交代要員がない場合であれば、その競技者が治療を受けピッチに戻るまで、試合を停止する。その競技者がピッチに戻れない場合や交代要員がない場合、試合は中止される。

26. 評議会の見解によれば、いずれかのチームの競技者が3人未満になった場合、試合を続けるべきではないとしている。一方のチームは5人の競技者がいるのに対して他方のチームが3人の競技者のみであった。5人の競技者で構成しているチームがゴールへまさにシュートしようとしたとき、3人チームの競技者の1人が意図的にピッチから離れた。

- a 主審または第2審判は、ただちにちにプレーを停止しなければならないか。

その必要はない。可能であれば、アドバンテージを適用する。

- b ゴールに入った場合、主審または第2審判は得点を認めるべきか。

認めるべきである。

- c その後、主審または第2審判のとりべき処置は何か。

得点された後、ピッチを離れた競技者がキックオフに戻らなければ、試合を中止し、関係機関に競技者の行動について報告書を提出する。

ピッチに戻った場合、主審または第2審判の承認なく意図的にピッチを離れたことで、その競技者を警告する。もし、それがその試合において2つ目の警告であった場合、そのチームは3名未満となってしまうので、試合は中止される。

### 第3条 競技者の数

27. 6人の競技者でプレーしているチームが得点をし、主審または第2審判はプレーの再開前にこのことに気付いた。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

得点を与えない。ペナルティーエリア内から相手チームの間接フリーキックによりプレーを再開する。主審または第2審判の承認を得ずにフィールドに入ったことにより6人目の競技者を警告し、ピッチから離れるように指示する。

28. 6人の競技者でプレーしているチームと対戦しているチームが得点をし、主審または第2審判が試合の再開前にこのことに気付いた。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

得点を与える。主審または第2審判の承認を得ずにピッチに入ったことにより反則した競技者を警告しフィールドを離れるように指示する。

29. 競技者は飲水のために意図的にピッチを離れることができるか。

交代ゾーンを用いてチームベンチにおいて飲水できる。

(日本協会の解説：英文の回答は、「競技者は試合の停止中にタッチライン上でのみ飲水できる。」としている。しかし、これはサッカーの質問と回答そのままを掲載したものであり、自由な交代が認められているフットサルの競技規則を反映していない。日本語版でこの部分を修正し、「交代ゾーンを用いてチームベンチにおいて飲水できる」とした。)

30. 交代要員のウォームアップの場所はどこになるのか。

可能であれば、ベンチの後方となる。そこが不可能であれば、競技者や審判員の邪魔にならない場所においてウォームアップしなければならない。ただし、相手ゴールの後方のウォームアップは認められない。ウォームアップ中、交代要員はピッチ内の競技者と異なった色の服装をしなければならない。

31. ベンチ周囲のエリアから指示を与えることができる者は何人か。

このエリアから指示を与えられるのは、1人のみである。指示を与える場合、正しい態度で、また競技者や審判員の動きの邪魔にならないのであれば、このエリア内に立つことが可能である。

32. 第2ペナルティーマークからのキックあるいは壁なしのフリーキックを行わせるため、試合時間が延長された。ゴールキーパーはキックの前に交代することができるか。

できる。ゴールキーパーはその他のフィールドプレーヤー、ゴールキーパーの交代要員と交代することが可能であるが、交代の手続きが守られなければならない。

## 第4条 競技者の用具

1. 両ゴールキーパーのシャツの色が同じであって、どちらのゴールキーパーも替えるべきシャツを持っていなかった場合、主審のとるべき処置は何か。  
プレーを始めることを認める。
2. 第4条によれば、それぞれのチームの競技者およびゴールキーパーは他の競技者と区別できるように異なる色のジャージまたはシャツを着なければならぬ。競技者は審判団と異なる色の服を着用しなければならないか。  
着用しなければならない。競技者およびゴールキーパーは審判団と区別のつく服を着なければならない。
3. 得点を喜ぶために競技者がシャツを脱いだ場合、反スポーツ的行為で警告されなければならないか。  
シャツを脱ぐ、あるいはシャツを頭に被った場合、反スポーツ的行為により警告される。
4. 競技者がシャツを脱ぎ、その下に着ていた同じようなシャツを見せた場合、主審または第2審判はどのような措置を取るのか。  
反スポーツ的行為で警告する。
5. 試合中、競技者は負傷から自分を守るための用具を着用してもよいか。  
競技規則の要件、つまり自分自身あるいは他の競技者に危険でなければ、競技者は膝や肘を覆うパッド類やフェイスマスクあるいはパッド付きのヘッドバンド類のような保護用具を着用してもよい。
6. 試合中、競技者はめがねをかけてもよいか。  
プラスチックあるいは類似の素材でできた最近のスポーツめがねは、一般的には危険であるとは考えられない。このような状況から主審または第2審判はそのようなめがねの着用を認める。

7. 主審または第2審判が競技者に装身具を外すように指示した。数分後、主審または第2審判はその競技者がまだ装身具を身につけていることに気付いた。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

反スポーツ的行為によりその競技者を警告する。主審または第2審判はその競技者にピッチを離れ、装身具を外すように指示する。

8. 競技者が危険と考えられる装身具をテープを使って覆うことは許されるか。  
許されない。

9. 競技者の靴が偶然に脱げてしまい、その直後にその競技者が得点をした。これは認められるか。

認められる。その競技者が意図的に裸足になったのではなく、たまたま靴が脱げてしまったのである。

10. 競技者とテクニカルスタッフの間、またはそれぞれの間で通信器具を使うことは許されるか。

許されない。

11. 関係する加盟協会はそれぞれの競技会規定に第4条に修正あるいは追加を加えることができるか。

できない。第4条は「競技規則に関する注解」にある修正可能な事項に含まれていない。

## 第5条 主審

1. ピッチにいる主審または第2審判の1人の顔にボールが当たり、一時的に主審または第2審判ができない状態になっている間にボールがゴールに入った。その主審または第2審判は得点の状況を見ていなかったが、得点を認めるべきか。認めるべきである。ただし、もう一方の審判員が正しく得点されたと判断した場合に限る。
2. 試合中、観客の投げた物が、審判団の1人（主審、第2審判、第3審判またはタイムキーパー）あるいは競技者に当たり、その人が治療を受けるためにプレーが停止された。主審は試合を続けることができるか。  
その出来事の重大さによって、試合を続ける、プレーを中断する、あるいは試合を打ち切ることができる。もっとも、主審はその出来事を関係機関に報告しなければならない。
3. 照明が不十分であると審判が判断した場合、主審はプレーを停止する権限があるか。  
停止する権限がある。
4. ほとんどの試合は人工的な照明下でプレーされるが、それが故障した。照明施設が修復されない場合、試合のすべての時間を再試合すべきか、あるいは残った時間のみか。  
主審が規定の試合時間の終了前に第5条に規定される何らかの理由で停止した場合、競技会規則で試合を停止したときの得点が有効であると規定していない限り、試合の全時間をプレーしなければならない。
5. 主将はレッドカードに値する不正行為をした味方競技者を退場させることができるか。  
できない。主審または第2審判のみが競技者をピッチから退場させることができる。
6. チームの主将は主審または第2審判の決定について質問する権利を持っているか。  
持っていない。主将もその他の競技者も、主審または第2審判にが下した決定について異議を示す権利を持っていない。

7. 競技者が警告あるいは退場となる反則を犯したが、主審または第2 審判は相手チームにアドバンテージを与えプレーを続けさせた。いつその競技者に警告を与える、または退場を命じるべきか。
- 次にボールがアウトオブプレーになったときに、その競技者を警告、あるいは退場させなければならない。
8. 競技者が警告となる反則を犯したが、主審または第2 審判が試合を続けさせた。その後、プレーが停止され、最初の反則を犯したチームにフリーキックが与えられた。そのチームの競技者が有利となるよう素早くフリーキックを行った。これは認められるか。
- 認められない。主審または第2 審判はそのフリーキックを素早く行うことを認めず、プレーが再開される前に最初の反則を犯した競技者を警告する。
9. 主審または第2 審判は、ハーフタイムのインターバル中あるいは試合終了後にイエローカードまたはレッドカードを示すことができるか。
- できる。主審または第2 審判は、ピッチを去るまではこの行為を行うことができる。
10. 両チームの主将がハーフタイムのインターバルを取らないことに合意したが、競技者の1人がインターバルを取る権利を主張した場合、主審のとるべき処置は何か。
- 競技者はインターバルを取る権利を持っており、主審はインターバルを与えなければならない。
11. 主審または第2 審判は、チーム役員にピッチの境界線から離れることを命じる権限を与えられているか。
- 与えられている。たとえ公共の競技場で試合が行われている場合でも、主審または第2 審判はそのような処置を取る権限を有している。
12. チーム役員が不正行為を犯した。主審または第2 審判のとるべき処置は何か。
- その役員をベンチおよびその周辺から境界を仕切るフェンス（そのようなフェンスがある場合）の後方へ退去させる。また、その役員らの行為について関係機関に報告しなければならない。

## 第5条 主審

13. ボールがタッチラインを越えた。しかし、ボールがアウトオブプレーになったとシグナルされる前に、ペナルティーエリア内にいる守備側競技者が攻撃側競技者を打った。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

守備側競技者に乱暴な行為により退場を命じ、レッドカードを示す。反則が起きたときボールはアウトオブプレーであったので、主審または第2審判はキックインで試合を再開する。

14. 試合中に、主審または第2審判が一方のチームが意図的に負けようとしていることに気付いた場合、主審または第2審判はいかなる対応をするべきか。問題のチームが同様の方法でプレーを続けていると気付いたならば、第5条の条項に従って主審または第2審判は試合を終了するという旨の注意を促すべきか。

この場合、主審または第2審判には試合を停止させる権限はない。

15. ボールがインプレー中、両チームの競技者が同時に反則を犯した。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

プレーを停止し、反則の程度によってそれらの競技者に警告または退場させる。あるいは懲戒処置を取らない。反則が起きたときにボールのあった地点でドロップボールにより試合を再開する。

16. 観客が笛を吹いた。自陣のペナルティーエリア内にいる守備側競技者が、プレーが停止されたと思い、手でボールを拾い上げた。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

主審または第2審判はこの笛を外部からの妨害と見なし、試合を停止してドロップボールにより再開するべきである。

17. ゴールクリアランス中、主審はタイムキーパーとベンチが置かれている逆サイドのタッチライン上において、プレーの再開を指示する。主審は、試合中常にこのサイドのタッチラインで試合を審判するのか。

ゴールクリアランスの場合だけでなく、試合を円滑に進めるのに有効であれば主審と第2審判はタッチラインを替えることができる。

## 第6条 第2審判

1. 主審が負傷した場合、第2審判がその代わりにを務めなければならないか。  
代わりを務めなければならない。そして、第3審判が第2審判に代わる。また、タイムキーパーが第3審判の職務も負うことになる。
2. 第3審判が置かれていない試合において、主審が第2審判を解任することとした、あるいは第2審判が負傷した。タイムキーパーがその職務を負うことができるか。  
タイムキーパーにその準備があれば、負うことができる。また、タイムキーパーも同様交代することができる。
3. 第2審判がファウルを示すためピッチの中に入る、壁を離す、あるいは競技者を警告等することができるか。  
できる。
4. 第2審判がイエローカードを競技者に示した。同時に、主審はレッドカードを同競技者に対して示した。どちらの判定が優先されるか。  
主審の判定が優先される。どんなときであっても食い違いがあった場合、主審の判定が優先される。
5. 得点があったとき、第2審判は何をするのか。  
タイムキーパーの机の近くにいたのであれば、そこに近づき、第3審判が置かれている場合は第3審判およびタイムキーパーに対して、得点をした競技者の番号を知らせる。
6. ペナルティーキックが行われるときの第2審判の職務はどのようなものか。  
ボールが完全にゴールラインを越えたかどうか、また、ボールがインプレーになる前にゴールキーパーがゴールラインから前進したかどうかをチェックする。
7. 第2ペナルティーキックあるいは壁なしのフリーキックが行われるときの第2審判の職務はどのようなものか。  
ボールが完全にゴールラインを越えたかどうか、また、ボールがインプレーになる前にゴールキーパーがボールから5m以内に近づいたかチェックする。

## 第7条 タイムキーパーおよび第3審判

1. ゴールクリアランスあるいは守備側チームのフリーキックがそのチームのペナルティーエリア内から行われる。ボールがペナルティーエリアから出る前にストップウォッチをスタートするべきか。

スタートしてはならない。ボールがインプレーになった後、ストップウォッチをスタートすべきである。

2. 試合終了後のブザーが鳴ったと同時に、あるいは鳴った直後の得点について、誰が判断を下すのか。

主審である。壁なしのフリーキックや第2ペナルティーマークからのキックあるいはペナルティーキックに値する反則が犯された場合であっても、主審はブザーの前か、同時かあるいは後に反則が犯されたどうか判断する。

3. ボールがインプレー中、タイムキーパーが間違っただブザーを鳴らしてしまった。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

ブザーが両チームに不利益を生じさせないのであれば、主審または第2審判はジェスチャーでその旨を知らせつつ、試合を続けさせる。もし試合停止してしまったならば、試合が停止したときボールのあった場所でボールをドロップしてプレーを再開する。

4. 競技者がフットサル競技規則で認められていない理由により、主審または第2審判の承認なくピッチを去った。第3審判あるいはタイムキーパーは主審または第2審判に伝えるべきか。

アドバンテージが適用できないのであれば、伝えるべきである。ブザーを鳴らし、主審または第2審判に知らせ、試合を停止し、相手チームに反則が犯されたときにボールがあった場所から行われる間接フリーキックを与えることにより反則を犯したチームを罰する。もし、アドバンテージが適用されるのであれば、次にボールがアウトオブプレーになったときにブザーを鳴らす。反則を犯した競技者は主審または第2審判の承認なくピッチを離れたことにより、警告されなければならない。

5. プレーの中断が終了したが、タイムキーパーはストップウォッチを再開するのを忘れてしまった。主審または第2審判の取るべき措置は何か。
- ストップウォッチによって計測されなかった時間を追加させなければならない。
6. 退場後の2分間が終了した。誰が交代要員をピッチに入れることを承認するのか。
- タイムキーパーある。
7. 一方のチームが5つ目の累積ファウルを犯した。第3審判あるいはタイムキーパーはどのような手続きを取るべきか。
- 主審または第2審判にブザーを用いて知らせる。これによって、審判は反則を犯したチームに注意することができる。また、試合時間計測のための机の上に反則を犯したチーム側に5つ目の累積ファウルの掲示を行う。
8. 会場の主たる電光掲示板がプレーの進行中止まってしまった。主審または第2審判の取るべき措置は何か。
- タイムキーパーは携帯用のストップウォッチを常に持っておかなければならない。それによって、試合時間を計測することができる。もし、このような状況が発生した場合、両チームの役員はタイムキーパーに対してどの程度試合が進行しているのかなど聞くことができる。携帯用ストップウォッチは、それだけでなく、スタジアムに掲示設備がない場合、タイムアウトの時間計測にも使用することができる。
9. タイムキーパーあるいは第3審判は正規のストップウォッチが正しく作動しないことに気がついた。このことを誰に伝えるべきか。
- 主審または第2審判に対して伝える。

## 第7条 タイムキーパーおよび第3審判

10. フットサル競技規則に規定された手続きを踏まず交代がなされた。第3審判あるいはタイムキーパーの取るべき措置は何か。

反則をしたチームがボールを保持している場合、ブザーを鳴らし、主審または第2審判に伝える。そうでない場合、次に試合が停止されたときにブザーで知らせる。

11. 第3審判とタイムキーパーは、つねにピッチ上の競技者の記録をとるのか。記録をとる。

## 第8条 試合時間

1. 試合の勝者を決定するために延長戦が行われる。競技者は、延長戦のハーフタイムにインターバルを取る権利を与えられているか。  
一般的に、通常の試合時間の終了後延長戦の開始までの間にインターバルを取ることができるかとされている。しかし、通常、延長戦の前後半の間に追加的なインターバルを取ることはない。
2. 主審または第2審判は、前後半の終了の笛を吹くために、ボールの動きや位置を考慮しなければならないか。  
考慮する必要はない。単にフットサル競技規則に規定されている終了の正しいタイミングに従わなくてはならない。
3. 試合時間を追加して行うペナルティーキック、第2ペナルティーマークからのキックあるいは壁なしのフリーキックが行われた後のプレーを行うことはできるか。  
できない。
4. 第8条には、試合時間について言及している。これは、実際にプレーされる時間（プレーイングタイム）について言及しているのか。  
そのとおりである。
5. キックオフの時間は、いつスタートするのか。  
ボールがけられた後、ピッチの反対側ハーフの方向に動いたときである。
6. 試合時間を追加して行うペナルティーキック、第2ペナルティーマークからのキックあるいは壁なしのフリーキックが行われる、またはやり直される。ボールがゴールラインまたはタッチラインを越える前でポスト、クロスバーあるいはゴールキーパーに当たる以前に破裂や減圧した場合、主審の取るべき措置は何か。  
新しいボールを取り寄せ、キックをやり直させなければならない。

## 第9条 プレーの開始および再開

1. 試合に出場する競技者以外の人がキックオフを行うことができるか。

できない。ある種の試合（たとえば慈善試合、公開試合）において、試合に参加していない人が式典でボールをキックすることが取り決められている場合には、ボールをピッチの中央に戻して、競技規則に従ってキックオフを行わなければならない。
2. タイムキーパーが試合開始の準備が整ったことを知らせるブザーを鳴らした後、誰が試合開始の笛を吹くのか。

主審がハーフウェーライン近くに位置して笛を吹く。第2審判はキックオフを行わないチームの最後から2人目の守備側競技者と同じレベルに位置することになる。
3. 延長戦が行われるとき、どちらのチームがキックオフを行うのか。

コイントスを行い、トスに勝ったほうのチームが延長戦の前半にどちらかのゴールに攻めるのか決め、もう一方のチームがキックオフを行う。
4. ゴールキーパーは他の競技者とともにドロップボールに加わることができるか。

できる。いかなる競技者もドロップボールに参加することができる。
5. プレーがドロップボールで始められるときに、一方のチームの競技者が参加することを拒否した。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

ドロップボールでプレーを再開する。ドロップボールで再開するためにそれぞれのチームがその場にいる必要はない。
6. プレーを再開するためにドロップボールを行うとき、ドロップしたボールが競技者に触れることなくバウンドしてからアウトオブプレーになった。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

主審または第2審判は前と同じ地点でドロップボールによりプレーを再開する。

7. ドロップボールのとき、競技者が離れるべき特別な距離はあるか。
- ない。競技者が動き、ドロップボールが正しく行われるために相応しい距離があればよい。
8. キックオフが行われ、ボールがハーフウェーラインを転がりタッチラインを越えた。主審または第2審判の取るべき措置は何か。
- キックオフを再度行うよう指示しなければならない。ボールは正しくインプレーとなっていないので、タイムキーパーはストップウォッチをスタートしてはならない。
9. 主審は、キックオフの前に両ゴールキーパーおよびその他の競技者が試合を開始できるように準備ができていること確認しなければならないか。
- 確認する必要はない。主審は、ピッチに邪魔なものがないか、また競技者がいるかどうかのみ注意しなければならない。タイムキーパーと第3審判は確実に交代要員とチーム役員が適切にベンチに座っているようにしなければならない。

## 第10条 ボールのインプレーおよびアウトオブプレー

1. ボールの一部がゴールラインあるいはタッチラインのいずれかに付いている場合は、アウトオブプレーか。

アウトオブプレーではない。ボールの全部分がこれらのラインを完全に越えない限りアウトオブプレーにならない。

## 第11条 得点の方法

1. ボールが完全にゴールラインを越える前に主審または第2審判が得点の合図をしたが、直ちにこの誤りに気付いた。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

その場所に最も近いペナルティーエリアライン上でボールをドロップしてプレーを再開する。

## 第12条 ファウルと不正行為

1. ペナルティーエリアライン上でドロップボールをしようとしているとき、ボールがピッチ面に触れる前に守備側競技者が相手競技者を乱暴に打った。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

これはファウルではなく不正行為であるので、その競技者を乱暴な行為により退場させ、ドロップボールでプレーを再開する。

2. ボールがインプレー中、同じチームの2人の競技者がフィールド上で互いに反スポーツ的行為、もしくは乱暴な行為を犯した。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

2人の競技者を警告するか退場させ、違反が犯されたときにボールがあった場所から行われる相手チームの間接フリーキックでプレーを再開する。\*

3. ボールがインプレー中、ゴールキーパーがゴールラインとゴールネットで囲まれたエリア内で相手競技者を打った。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

プレーを停止し、ゴールキーパーを退場させる。プレーを停止したときにボールがあった場所でドロップボールによりプレーを再開する。

その出来事が起きたエリアはピッチの一部ではないので、ペナルティーキックは与えられない。

4. 攻撃側競技者がゴールキーパーを抜き去り、無人のゴールへボールをキックした。守備側競技者が靴または類似の物を投げ、それがボールに当たり、ボールがゴールに入るのを妨げた。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

靴または類似の物は競技者の手の延長であると見なされる。プレーを停止し、ペナルティーキックを与え、反則を犯した競技者に意図的にボールを手で扱って得点を阻止したことにより退場を命じる。

5. 攻撃側競技者がゴールキーパーを抜き去り、無人のゴールへボールをキックした。ゴールキーパーが靴または類似の物を投げ、それがボールに当たり、ボールがゴールに入るのを妨げた。主審または第2 審判のとるべき処置は何か。

ゴールキーパーを反スポーツ的行為により警告する。ボールが靴または類似同様の物に当たったとき、ボールがあった場所から最も近いペナルティーエリアライン上から行われる間接フリーキックによって試合を再開する。

6. ゴールキーパー以外の競技者が自陣のペナルティーエリア内ですね当てを持って立ち、ボールがゴールに入るのを防ごうとしてすね当てでボールを打った。主審または第2 審判のとるべき処置は何か。

ペナルティーキックを与え、得点を阻止したことによりその競技者を退場させる。すね当ては競技者の手の延長であるとみなされる。

7. 同様の状況で、問題となる競技者がゴールキーパーであった場合はどのようになるか。

プレーを停止し、反スポーツ的行為によりゴールキーパーを警告し、相手チームの間接フリーキックでプレーを再開する。

8. 治療を受けるためにピッチを離れ、まだ交代が済んでいない競技者がピッチ内で相手競技者をつまずかせた。主審または第2 審判のとるべき処置は何か。

その競技者を主審または第2 審判の承認なしにフィールドに復帰したことで警告する。そのトリッピングがファウルに値するならば、懲戒罰を与える必要があり、直接フリーキックでプレーを再開する。

## 第12条 ファウルと不正行為

9. 競技者が交代の手続きに従ってピッチに入り、意図的にボールを手で扱った。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

直接フリーキックあるいはペナルティーキックでプレーを再開する。\* その競技者が意図的にボールを手で扱うことで、さらに反スポーツ的行為も犯していると主審または第2審判が判断した場合、その競技者を警告する。もし、決定的な得点の機会を阻止したと判断した場合、その競技者を退場させる。

10. ボールをドリブルしている競技者が、すぐ自分の前に守備側競技者がいるのを見て、ドリブルを続けるためにピッチの外を走った。守備側競技者はドリブルを止めようとして、ドリブルしている競技者をタッチラインの外側で押さえた。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

プレーを停止し、守備側競技者を反スポーツ的行為により警告する。プレーを停止したときにボールのあった地点でドロップボールによりプレーを再開する。\* これはファウルではなく不正行為であるので、その競技者を反スポーツ的行為により退場させ、ドロップボールでプレーを再開する。

11. ボールがインプレー中、自陣のペナルティーエリア内に立っている競技者がペナルティーエリア外に立っている相手競技者に物を投げつけた。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

プレーを停止し、物を投げつけた競技者を乱暴な行為により退場させる。反則の起きた地点から、すなわち相手競技者に物が当たった、あるいは当たったであろう場所から、相手チームの直接フリーキックによりプレーを再開する。\*

12. 競技者がベンチに座っている人に物、例えば靴を乱暴に投げつけた。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

プレーを停止し、その競技者を乱暴な行為により退場させ、物が投げられたところから相手チームの間接フリーキックによってプレーを再開する。

13. ボールがインプレー中、交代要員が相手チームの競技者に物、例えば靴を投げつけた。主審または第2 審判のとるべき処置は何か。

プレーを停止し、その交代要員を乱暴な行為により退場させる。プレーを停止したときボールのあった場所で相手チームの間接フリーキックによりプレーを再開する。\*

14. 自陣のペナルティーエリア内に立っている競技者が主審を打った。主審または第2 審判のとるべき処置は何か。

プレーを停止し、その競技者を乱暴な行為により退場させる。反則の起きた地点でから場所から最も近いペナルティーエリアラインから相手競技者の間接フリーキックによりプレーを再開する。

15. 自分のペナルティーエリア内にいるゴールキーパーがペナルティーエリアの少し外にあるボールを意図的に手で扱った。主審または第2 審判の取るべき処置は何か。

相手チームに直接フリーキックを与える。もし相手の決定的な得点の機会を奪うような懲戒的違反が犯されると主審または第2 審判が判断した場合、それなりの制裁を加えなければならない。

16. ペナルティーエリア内でゴールキーパーが手でボールをコントロールし、同じくペナルティーエリア内にいる味方競技者にパスしたが、味方競技者はミスキックしボールが自分のゴールに向かっていった。ゴールキーパーはゴールに入ることを手で止めることができなかった。主審または第2 審判の取るべき処置は何か。

得点を認める。

## 第12条 ファウルと不正行為

17. ペナルティーエリア内において、ゴールキーパーがボールを手で持っている。その後、ボールをピッチ面に置いて、ペナルティーエリアから出たが、ペナルティーエリア内に戻り、手でボールを再び触れた。主審または第2審判の取る処置は何か。
- 4秒を超えたとき、相手チームに間接フリーキックを与える。\*
18. ゴールクリアランスではない状況で、ゴールキーパーが前線にキックする前に保持したボールをバウンドさせた。バウンドさせることは反則となるか。
- 反則にはならない。4秒を超えない限り、ボールを手から離すことは競技規則の精神に反していない。
19. ゴールキーパーがボールをバウンドさせている場合、相手競技者は危険なプレーを犯さなければ、ピッチ面にあるボールをプレーできるか。
- できない。
20. ボールを保持した後、ゴールキーパーがボールを手のひらに乗せていた。相手競技者が後方から来て、手の上にあるボールをヘッドした。これは許されるか。
- 許されない。
21. ゴールクリアランスではなく、ゴールキーパーがボールを投げ、手から離れた。またはキックしてボールをフィードしようとした。ボールがピッチ面につく前に相手競技者がインターセプトした。これは許されるのか。
- 許されない。ゴールキーパーがボールを手から離すのを邪魔している場合、反則となる。ボールを投げて離す、またキックすることはひとつの動きとみなされる。
22. ゴールキーパー以外の守備側競技者がペナルティーエリアの外に立ち、ペナルティーエリア内のボールを意図的に手で扱った。主審または第2審判のとるべき処置は何か。
- ペナルティーキックを与える。手や腕の不正な使用は意図的なハンドの反則に含まれる。

23. 攻撃側競技者によってキックインが行われたところ、ボールが守備側ゴールキーパーのところに行った。ゴールキーパーはボールをまったく触ることができず、味方競技者がボールをパンチしたところ、クロスバーを越えた。主審または第2 審判の取る処置は何か。

ペナルティーキックを与え、反スポーツ的行為でその競技者を警告する。キックインからは直接得点することができないので、決定的な得点の機会を阻止していないことから、その競技者は退場させられない。

24. 競技者が意図的に手で扱ってボールがゴールに入るのを阻止しようとした。しかし、ボールはゴールに入った。主審または第2 審判の取るべき処置は何か。

その競技者を反スポーツ的行為により警告するし、得点を認める。

25. ゴールキーパーでない競技者が自分のペナルティーエリア内において意図的に手で扱い、ボールが相手競技者に渡るのを防ごうとした。ボールに触れたが、ボールが相手競技者に渡るのを防げなかった。主審または第2 審判の取るべき措置は何か。

アドバンテージを適用した場合、次にプレーが停止されたとき、違反した競技者を反スポーツ的行為で警告する。

26. ボールがインプレー中、競技者が伸ばした手や腕で偶然ボールをインターセプトしてしまった。主審または第2 審判は、何か対応するのか。

対応する必要はない。プレーが意図的に行われていないのであれば、反則が犯されたのではない。

27. 競技者が身体的接触をもって、相手競技者の進行を止めた。主審または第2 審判の取るべき措置は何か。

違反を犯した競技者を相手競技者を抑えたことで、相手チームに直接フリーキックあるいはペナルティーキックを与えて罰する。

## 第12条 ファウルと不正行為

28. 主審または第2審判は、その試合に出場している、していないにかかわらず、攻撃的な、侮辱的な、あるいは口汚い発言または身振りをしたことで、交代要員をチームベンチから離れて更衣室に戻るようレッドカードを示すことが許されるか。
- 許される。すべての競技者と交代要員はピッチ上にいるいないにかかわらず、主審または第2審判の管轄下にある。レッドカードを用いることによって、制裁が発せられることを明確に示すことになる。
29. 競技者が不当に長い間意図的にボールの上に乗っていた。主審または第2審判の取るべき処置は何か。
- プレーを停止、その競技者を反スポーツ的行為により警告して、相手チームに間接フリーキックを与えて、プレーを再開する。\*
30. 主審または第2審判が競技者を警告したところ、不正行為について謝罪した。主審はその出来事について報告しないとすることができるか。
- できない。すべての警告は報告されなければならない。
31. 主審または第2審判はチーム役員に対してイエローカードやレッドカードを示すことができるか。
- できない。カードは、競技者あるいは交代要員のみを示すことができる。しかし、主審または第2審判はチーム役員に対して懲戒処分を取ることができ、退席（ベンチから離れる）させることもできる。その場合、審判報告書に記述しなければならない。
32. ボールを奪おうとして相手ペナルティーエリア内にいる相手ゴールキーパーに触れた。これは許されるか。
- ゴールキーパーがコントロールしているボールを奪おうとするプレーは許される。ボールを奪おうとするプレーが不用意に、無謀にあるいは過剰な力をもって、相手ゴールキーパーに飛び掛る、チャージする、あるいは押す場合のみ、罰せられる。
33. 2人またはそれ以上の競技者が同時に相手競技者のボールを奪おうとすることは許されるか。
- ボールを取ろうとするプレーが正当に行われれば、許される。

34. 守備側競技者がペナルティーエリアの外で攻撃側競技者を押さえ始め、ペナルティーエリア内で止めた。主審または第2審判の取るべき処置は何か。
- 守備側競技者は、相手チームにペナルティーキックを与えることで罰せられる。
35. 相手競技者がボールをヘッドしようとしたとき、足を上げる危険なプレーを行い、足は相手の頭に当たった。主審または第2審判の取るべき処置は何か。
- 相手チームに直接フリーキックかペナルティーキックを与えることで、違反を行った競技者を罰する。
36. 競技者が4秒ルールに違反したとき、アドバンテージを適用することができるか。
- ゴールキーパーが自分のハーフ内でボールを手または足でコントロールして、その後、ボールを離すという反則の場合のみにアドバンテージを適用できる。その他のすべての状況において、アドバンテージは適用できない。
37. 退場の2分間が経過した後、第3審判あるいはタイムキーパーの承認を受け競技者がピッチに入ろうとした。ピッチのどのエリアから入るべきか。
- その競技者のチームの交代ゾーンから入る。さもなければ、フットサル競技規則に規定される交代の手続きに関するルールを破ったことにより罰せられる。
38. 競技者がピッチから出ようとした。歩いて出ようとしたとき、ボールがその競技者のところに来たので、ゴールにけり入れてしまった。主審または第2審判の取る処置は何か。
- その競技者を反スポーツ的行為により警告する。試合は、違反があったときにボールがあった場所から相手チームが間接フリーキックを相手チームで再開する。\*

## 第12条 ファウルと不正行為

39. 第3審判あるいはタイムキーパーが、競技者が乱暴な行為を行ったので合図した。主審または第2審判は、その反則や合図を見ていないうちに、反則を犯した競技者のチームが得点をした。もうひとりの審判が、その後、第3審判あるいはタイムキーパーからの合図を聞いた、または見た。主審または第2審判の取るべき処置は何か。

得点を認めず、反則を犯した競技者を退場させ直接フリーキックで試合を再開する。\*

40. 得点があった後、主審または第2審判が第3審判あるいはタイムキーパーからのシグナルを聞いた、または見た。第3審判あるいはタイムキーパーは、ボールがゴールに入る前に得点をしたチームのゴールキーパーが自分のペナルティーエリア内で相手競技者を打った。主審または第2審判の取るべき処置は何か。

得点を認めず、ゴールキーパーを乱暴な行為で退場させ、相手チームにペナルティーキックを与える。

41. ボールをプレーしようとした足でのスライディングタックルは、どのような場合、認められるのか。

相手競技者がそのボールをコントロールしていない場合である。相手競技者がボールをコントロールしている場合にタックルした場合で、主審または第2審判がその行為を悪質であるとみなした場合、反則を犯した競技者は退場させられる。

42. 競技者が相手ゴールに向かって、明白な得点の機会にある。相手ゴールキーパーは自分のペナルティーエリアから出て、足を用いたスライディングタックルで相手のボールを奪った。主審または第2審判の取るべき処置は何か。

相手競技者の決定的な得点の機会を奪ったことで、そのゴールキーパーを退場させ、相手チームに直接フリーキックを与える。また、ファウルも累積させなければならない。試合は、反則の起きた場所から行う直接フリーキックで再開される。

43. ゴールキーパーがボールを味方フィールドプレーヤーにパスをしたところ、その競技者は直接ゴールキーパーにパスを返した。ボールは、そのハーフから出ていない。主審または第2審判の取る処置は何か。

ゴールキーパーがボールを2度目に触れた場所から行われる間接フリーキックをそのゴールキーパーの相手チームに与える。\*

44. 退場により一方のチームが1人少ない競技者数でプレーしていたところ、すぐに同じチームの2人目の競技者が退場となった。ピッチ上で競技者が2人少ないチームが得点された。退場後2分間経過していない状況で、得点後何人の競技者を入れることができるのか。

1人の競技者のみをピッチに入れることができる。もう1人については2分間経過するか、相手チームがもう1点得点するまで、待たなければならない。

45. 削除

(日本協会の解説：質問と回答45は、論理的矛盾を含んでいたため、2005年10月のFIFAフットサル審判インストラクターコースにおいて、削除されることで合意された。)

46. ピッチ上にいた競技者または交代要員が、通常の試合時間または延長戦のハーフタイムのインターバル中に反則を犯し、退場となった。その競技者が試合終了時にプレーをしていた場合、後半退場となった競技者のチームは、ひとり少ない競技者数でプレーするのか。

ひとり少ない競技者数でプレーすることになる。

47. 延長戦が設定された試合で、試合終了後延長戦に入る前に退場となる反則が犯された場合、延長戦はどのように開始するのか。

延長戦前のインターバルは試合の一部とはみなさないで、退場となった競技者のチームは、延長戦を始めるにあたって競技者数を減らさない。

## 第13条 フリーキック

1. 自分のペナルティーエリアの外側からフリーキックを行った競技者が、ボールが他の競技者にプレーされる前にボールを再び意図的に手で扱った。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

より重大な反則を罰する。直接フリーキックを与える\*。あるいは反則がペナルティーエリア内で起こった場合は、ペナルティーキックを与える。

2. チームに、そのチームのペナルティーエリア内でフリーキックが与えられた。味方競技者がボールをキックしペナルティーエリア内にいるゴールキーパーにパスをしたところ、ゴールキーパーはボールを取ることができず、ボールがゴールに入った。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

ボールはペナルティーエリアの外に出るまでインプレーにならないので、キックを再び行う。

3. 間接フリーキックが与えられ、自分たちのペナルティーエリアのライン上からけったところ、ボールがペナルティーエリア内にいる味方競技者に当たり、ゴールに入った。主審または第2審判のとる処置は何か。

ボールはペナルティーエリアの外に出るまでインプレーにならないので、キックを再び行う。

4. ゴールクリアランスあるいはフリーキックを自らのペナルティーエリア内から行うとき、相手競技者はいつペナルティーエリアに入ることができるか。

ボールがペナルティーエリアの外に出るまで、相手競技者はペナルティーエリアに入ることができない。

5. 片足あるいは両足を同時に用いてボールを持ち上げるフリーキックを行うことができるか。

できる。ボールは、けられるか触れられたのちインプレーになる。

6. 自らのチームに与えられたフリーキックを行うとき、相手競技者を混乱させるためフェイントを用いることができるか。

フェイントはフットサルの一部であり、用いることができる。しかし、ボールがインプレーになる前、ボールから5 m内に侵入した相手競技者は、必要な距離を守らないことにより警告される。その場合、通常の状態に戻るまで4秒ルールは適用されない。4秒ルールの再適用後、フリーキックをけるのに4秒を超えた場合、主審または第2審判は相手チームに間接フリーキックを与える。\*

7. 間接フリーキックが攻撃側チームに相手ペナルティーエリアの外側で与えられた。主審または第2審判は、間接フリーキックを示す腕を上げなかった。ボールがけられ、直接相手ゴールに入った。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

もともとの反則は間接フリーキックで罰せられるもので、これは主審または第2審判の誤りであるため、間接フリーキックをやり直す。

8. 競技者が素早くフリーキックを行いボールがゴールに入った。時間がなく、主審または第2審判は間接フリーキックの合図を行えなかった。審判のとるべき処置は何か。

間接フリーキックのシグナルを示す時間がなかったので、間接フリーキックを再び行うよう命ずる。

9. フリーキックが与えられ、競技者は素早くキックしようとした。ボールから5 m内にいる相手競技者がボールをインターセプトした。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

プレーを続けさせる。

10. フリーキックが与えられ、競技者は素早くキックしようとした。ボールの近くにいる相手競技者が意図的にそのキックを妨害しようとした。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

プレーの再開を遅らせたことにより、その競技者を警告し、イエローカードを示す。

## 第14条 累積ファウル

1. 競技者が第12条の直接フリーキックにかかる反則を犯したが、そのときボールはインプレーでなかった。主審または第2 審判の取るべき処置は何か。

この反則はファウルではないので、累積ファウルとして計算されない。主審または第2 審判はその反則の程度によって、懲戒罰を与える。

2. ボールがインプレー中、交代要員が直接フリーキックで罰せられる反則を行った。主審または第2 審判の取るべき処置は何か。

交代要員が交代にかかる違反を犯したならば、アドバンテージを適用できないかぎり、より重大な反則を罰するため、相手チームに直接フリーキックを与える。もっとも、アドバンテージを適用する、適用しないにかかわらず、その交代要員のチームのファウルは累積される。

交代要員がピッチに入り、それによって認められる数より多くの競技者がいることになった場合、その反則はファウルとして認められないので、累積ファウルとしない。アドバンテージが適用できず試合を停止したならば、プレーを止めたときにボールのあった場所からの間接フリーキックを相手チームに与える。

いずれにしろ、主審または第2 審判は必要な懲戒罰を与えなければならない。

3. プレーが停止されたならば直接フリーキックとなる反則が犯された後、主審または第2 審判がアドバンテージを適用した。ボールがアウトオブプレーになった後、反則を犯したチームに対して累積ファウルを記録しなければならないか。

記録しなければならない。主審または第2 審判がアドバンテージを適用したならば、タイムキーパーと第3 審判に対して、反則を犯したチームのゴールの方向を片腕で、また反対の手の人差し指を上げるシグナルを示し、ファウルを累積させる。

もし、その競技者が不正行為を犯していたならば、ボールがインプレーでなくなったときに警告する。

4. 両方のチームの競技者が全く同時に直接フリーキックで罰せられる反則を犯した。これらのファウルは累積ファウルとして記録されるか。

記録されない。というのもファウルが犯されたときにボールのあった場所でボールをドロップしてプレーを再開するからである。

5. 同じチームの複数の競技者が同時に直接フリーキックで罰せられる反則を犯した。これらのファウルは累積ファウルとして記録されるか。

記録される。というのも、主審または第2審判はこれらのファウルが犯されたことで試合を停止するのであるから。

6. 第2ペナルティーキックからのあるいは壁なしのフリーキックが行われ、主審が必要なシグナルを出したとき、キックを行うことで特定された競技者の味方競技者が突進してきて、代わりにキックを行った。主審の取るべき処置は何か。

主審はプレーを停止し、反則が犯された場所で行われる間接フリーキックを守備側チームに与える。\* 例えば、ボールから5m内に入ったところからである。

7. 第2ペナルティーキックあるいは壁なしのフリーキックが行われ、ボールがゴールポストやクロスバーに当たり破裂した。主審または第2審判の取るべき処置は何か。

ボールがポストやクロスバーに当たった直後ゴールに入った場合、得点を認める。

ボールがポストやクロスバーに当たった直後接ゴールに入らなかった場合、得点を認めない。ボールを交換し、ドロップボールでプレーを再開する。\* 第2ペナルティーキックや壁なしのフリーキックを行うため前後半、延長戦の前後半に試合の時間を追加している場合、終了である旨を宣言する。

## 第14条 累積ファウル

8. 第2ペナルティーマークまたは壁なしのフリーキックが通常の時間を延長して行われた、あるいは再度行われていた。ボールは、ゴールラインまたはタッチラインを越える前にゴールポストまたはクロスバーあるいはゴールキーパーに当たる前に破裂した。主審はどのような処置を取るべきか。

新しいボールを取り寄せ、第2ペナルティーマークまたは壁なしのフリーキックのやり直しを命じる。

9. 既に4つの累積ファウルが記録されているチームが直接フリーキックで罰せられるファウルを続けてふたつ犯したが、主審または第2審判がひとつ目のファウルに対して必須のシグナルを示して、アドバンテージを適用した。第3審判またはタイムキーパーはどのように対応すべきか。

6番目のファウルが犯されたとき、決定的な得点の機会以外のケースを除き、ブザーを鳴らしてプレーを止め、壁なしのフリーキックか第2ペナルティーマークからのキックが行えるようにする。

## 第15条 ペナルティーキック

1. ゴールキーパーがゴールライン上から前方に動いたので、主審はペナルティーキックを再び行うことを命じた。2度目のペナルティーキックを別の競技者が行ってもよいか。

別の競技者が行ってもよい。

2. ペナルティーキックが行われるとき、ボールがけられる前にゴールキーパーが前進してゴールラインより前方でボールをインターセプトした。主審のとるべき処置は何か。

ペナルティーキックを再び行わせる。

3. ボールがインプレーになる前に、ペナルティーキックを行う競技者の味方競技者がペナルティーエリア内に入るあるいはボールから5m内に入った。ペナルティーキックが行われ、ボールはゴールキーパーに弾かれ、クロスバーの上を通過してゴールラインを越えた。主審または第2審判の取るべき処置は何か。

違反が犯された場所から行われる間接フリーキックを守備側チームに与える。

4. 主審が合図する前に競技者がペナルティーキックを行った。主審のとるべき処置は何か。

ペナルティーキックを再び行うことを命じる。

5. ペナルティーキックが行われ、主審が必要なシグナルを出したとき、キックを行うために特定された競技者の味方競技者が突進してきて、代わりにキックを行った。主審の取るべき処置は何か。

主審はプレーを停止し、反則が犯された場所、つまりボールから5m内に入ったところから行われる間接フリーキックを守備側チームに与える。\* 突進してきた競技者は、反スポーツ的行為で警告される。

## 第15条 ペナルティーキック

6. ペナルティーキックが行われ、ボールがゴールポストやクロスバーに当たり破裂した。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

ボールがポストやクロスバーに当たった直後ゴールに入った場合、得点を認める。

ボールがポストやクロスバーに当たった直後ゴールに入らなかった場合、得点は認めない。ボールを交換し、ドロップボールでプレーを再開する。\* ペナルティーキックを行うため前後半、延長戦の前後半に試合の時間を追加している場合、ここで前後半が終了である旨を宣言する。

7. 前半または後半の終了時にペナルティーキックを行う、あるいはやり直しをするために時間を追加したとき、または『ペナルティーマークからのキック』の進行中に、ボールがゴールラインを越えることなく、ゴールポスト、クロスバーあるいはゴールキーパーに触れる前に破裂した。主審のとるべき処置は何か。

新しいボールでペナルティーキックをやり直さなければならない。

8. 主審はペナルティーキックを行う合図をした。そのとき攻撃側の競技者がペナルティーエリアの外で相手競技者を過剰な力で殴ったことに気付いた。主審のとるべき処置は何か。

主審は、ペナルティーキックが行われるのを待つ。ボールがゴールに入った場合、再びペナルティーキックを行わせる。ゴールに入らなかった場合、主審はプレーを停止し、反則が犯された場所から行う間接フリーキックでプレーを再開する。また、反則を犯した競技者を乱暴な行為を行ったことで退場させる。

9. ペナルティーキックを行う競技者がボールを味方競技者にヒールキックで後方にけり、そのボールを味方競技者がゴールに入れた。主審のとるべき処置は何か。

主審はプレーを停止し、ペナルティーマークから守備側チームに間接フリーキックで試合を再開する。

10. ペナルティーキックを行う競技者がボールを前方にけり、味方競技者が走り込んで得点した。これは認められるか。

ペナルティーキックの進め方が競技規則に規定される進め方が遵守されているならば、認められる。

11. インプレー中、ボールが相手のペナルティーエリア内にある時、自分のペナルティーエリア内に立っている守備側競技者が相手競技者を打った。主審のとるべき処置は何か。

プレーを停止する。守備側競技者の相手チームにペナルティーキックを与え、乱暴な行為によりその守備側競技者を退場させる。

12. ペナルティーキックを行うために時間を追加した。キックが行われる前にゴールキーパーは交代できるか。

できる。ゴールキーパーは、交代の手続きに従って、他のフィールプレーヤーであってもその他の資格のある交代要員とであっても交代することができる。

13. ペナルティーキックを行う競技者がボールをキックする前にフェイントを使った。これは認められるか。

認められる。

14. 試合がペナルティーキック、第2ペナルティーキックあるいは壁なしのフリーキックを行うために延長された。ボールは、ゴールポスト、クロスバー、あるいはゴールキーパーに当たってからゴールラインを越え、ゴールに入った。得点は認められるか。

認められる。

## 試合の勝者を決定するためのペナルティーマークからのキック

1. 試合の勝者を決定するペナルティーマークからのキックは、試合の一部であるか。

一部ではない。
2. 競技会規定に明記されているにもかかわらず、ペナルティーマークからのキックを両チームの主将が拒否することに合意した。主審のとるべき処置は何か。

主審は、競技会の関係機関に状況を報告する。
3. 試合の勝者を決定するためのペナルティーマークからのキックを行う競技者を選ぶ責任は誰にあるか。

ピッチ上にいる競技者と交代要員から最初にキックを行う5人の競技者とその順番を選ぶのは、それぞれのチームの責任である。
4. 試合の勝者を決定するためのペナルティーマークからのキックを行っているとき、ボールがゴールポストもしくはクロスバーに当たり、ゴールラインを越えることなく破裂した。キックを再び行うべきか。

行うべきではない。
5. ペナルティーマークからのキックに、負傷している競技者の参加を免除してもよいか。

免除してもよい。
6. 試合の終了時に数人の競技者がピッチを離れ、試合の勝者を決定するペナルティーマークからのキックに戻ってこなかった。主審のとるべき処置は何か。

負傷していない全ての競技者は、ペナルティーマークからのキックに参加しなければならない。ピッチを離れた競技者がピッチに戻らない場合、キックを行わず、主審はその出来事を関係機関に報告する。

7. ペナルティーマークからのキックが行われている間に、競技者を警告あるいは退場させることができるか。

警告あるいは退場させることができる。

8. 試合の勝者を決定するためのペナルティーマークからのキックが行われる。チームは試合終了のブザーが鳴ったときにピッチ上にいなかった交代要員をキックに参加させることができるか。

すべての競技者、交代要員が参加することができる。

9. 延長戦終了後、ペナルティーマークからのキックが行われる前、あるいは行われている間に、競技場の照明が故障した。主審のとるべき処置は何か。

主審は照明を修復するため、適当な時間を取ることを認める。事態が改善されない場合は競技会規定に従って結果を決定する。

10. ペナルティーマークからのキックを行っている間に、ゴールキーパーが退場させられた。ゴールキーパーは、登録された競技者と代わることができるか。

できる。

11. ペナルティーマークからのキックを行っている間にゴールキーパーが負傷し、プレーを続けることができなかった。ゴールキーパーは登録された競技者と交代できるか。

できる。ただし、そのことを主審に知らせる必要がある。

12. ペナルティーマークからのキックを行っている間に、一方のチームが3人より少なくなった。主審はペナルティーマークからのキックを中止すべきか。

中止すべきではない。ペナルティーマークからのキックは、試合の一部ではない。

## 試合の勝者を決定するためのペナルティーマークからのキック

13. ペナルティーマークからのキックを行っている間に、1人または数人の競技者が負傷した、もしくは退場させられた。審判は、両チーム同数の競技者がキックの行われている反対側ハーフ内にとどまっていた、キックを行えるようにしなければならないのか。

同数にする必要はない。両チームの人数を同数にそろえるのは、ペナルティーマークからのキックの開始時にのみ適用される。

14. 試合の終了後、一方のチームが12人の競技者(ピッチ上の競技者と交代要員)いたのに対して、他方のチームは10人の競技者だけだった。ペナルティーマークからのキックの前に両チームの競技者を同数にしなければならないか。

同数にしなければならない。主審はキックが行われる前にキックに参加できる競技者が両チームとも同数にしなければならない。

15. ペナルティーキックが行われる間、審判員はどこに位置しなければならないのか。

主審は、ペナルティーマークと同じレベルに位置し、キックを行わせる。

第2審判は、ゴールラインとペナルティーエリアラインの交点のゴールラインのところに位置し、ボールがゴールラインを越えたかどうかを確認すると共に、ペナルティーキックが行われる前にゴールキーパーが前方に動いたかどうかチェックする。

第3審判は、ペナルティーキックをこれから行う競技者とキックを終えた競技者(キッカーと両ゴールキーパーを除く)とともにキックの行われている反対ハーフに位置し、競技者がそのハーフから出て行かないことやその他の者がピッチに入らないようにする。

タイムキーパーは、タイムキーパーの机のところに座り、既に行われたペナルティーキックの記録を取る。また、チーム役員やペナルティーキックに参加できない競技者が交代ベンチから離れないようにする。第3審判が置かれていない場合、タイムキーパーが第3審判の職務を遂行する。

16. ゴールキーパーは味方競技者がペナルティーキックを行っているときどこに位置するのか。

第2 審判の立っている側の反対で、ゴールラインとペナルティーエリアラインの交点のところに位置し、常にスポーツ的な態度でいなければならない。

17. 試合の勝者を決定するため、ペナルティーキックが行われている。ボールがゴールポストやクロスバーあるいはゴールキーパーに当たってからゴールラインを越え、ゴールに入った。得点は認められるか。

認められる。

## 第16条 キックイン

1. ボールはタッチラインを越えてアウトオブプレーとなったが、キックインが行われる前に一方の競技者が意図的に相手競技者をけた。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

乱暴な行為によりその競技者を退場させ、キックインでプレーを再開する。
2. 競技者が正しくキックインを行ったが、ボールを相手競技者の頭にあるいは体に向け意図的にボールをけた。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

その競技者が反スポーツ的行為、あるいは乱暴な行為を犯していると主審または第2審判が判断した場合、プレーを停止する。その行為の程度によってその競技者を警告するか退場させる。反則が起こった場所、すなわちボールが相手競技者に当たった場所から、相手チームの直接フリーキックあるいはペナルティーキックでプレーを再開する。
3. キックインをする時に、ボールがタッチラインから出た場所から離れてよい最大距離はどのくらいか。

キックインはボールがピッチから出た地点、あるいは天井に当たったところと同じレベルの場所で行われなければならない。
4. キックインが正しく行われなかった。ボールが相手競技者に直接渡った。アドバンテージ条項を適用してプレーを続けさせることができるか。

続けることはできない。相手チームの競技者がキックインを再び行う。
5. 競技者がひざまずいて、あるいは座ってキックインを行うことは認められるか。

認められない。競技規則にある進め方を正しく行っている場合で、足で行った場合のみキックインは認められる。
6. 競技者がキックインを行った。その競技者がボールを直接味方のゴールキーパーにけり、ゴールキーパーはボールがゴールに入るのを両手で止めようとしてボールに触れたが、ボールはゴールに入った。主審または第2審判のとるべき処置は何か。

アドバンテージを適用することができるので得点を認める。

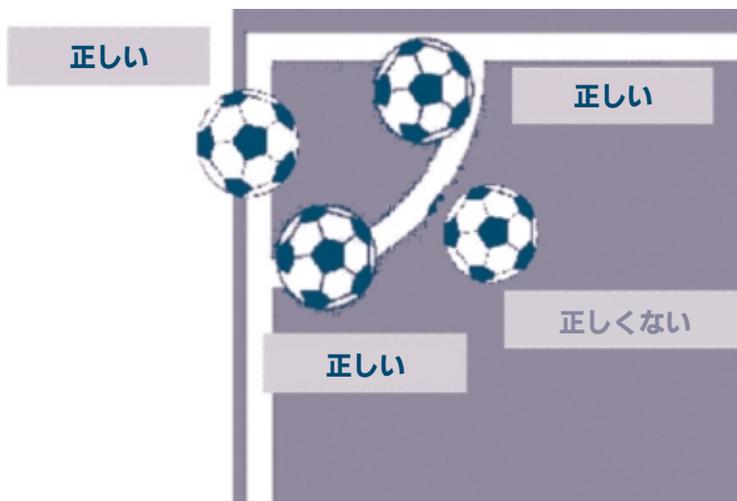
## 第17条 ゴールクリアランス

1. ゴールクリアランスが正しく行われ、ボールはペナルティーエリアを出たが、他の競技者がボールに触れる前にゴールクリアランスを行った競技者が意図的に手でボールをプレーした。主審または第2 審判の取るべき処置は何か。  
*相手チームに直接フリーキックを与える。フットサル競技規則に従って、その競技者に懲戒罰を与えることもある。*
2. ゴールキーパーが足でゴールクリアランスを行った。主審または第2 審判の取るべき措置は何か。  
*ゴールキーパーに注意を与え、手でゴールクリアランスを行うよう指示する。*
3. ゴールクリアランスが行われ、ボールがペナルティーエリアを出る前に、相手競技者がペナルティーエリア内に入り、守備側競技者によってファウルをされた。主審または第2 審判の取るべき処置は何か。  
*その反則の内容によってその競技者を警告し、あるいは退場させ、ゴールクリアランスを再び行う。*
4. ゴールキーパーがゴールクリアランスを行ったとき、ボールがペナルティーエリア内にいる主審または第2 審判に当たったが、ピッチ内に入った。主審または第2 審判の取るべき処置は何か。  
*何の処置をする必要もない。ボールはピッチ内の主審または第2 審判からはね返ってもインプレーのままである。*
5. ゴールキーパーがゴールクリアランスを行ったが、ボールはペナルティーエリアの外に出ずにゴールラインを越えた。主審または第2 審判の取るべき処置は何か。  
*ゴールクリアランスを再び行う。*

## 第18条 コーナーキック

1. コーナーキックが行われるとき、4分円の中へのボールの正しい置き方は何か。

以下の図が正しい置き方と正しくない置き方を表している。



2. インプレーになるには、ボールがコーナーアークから出る必要があるか。  
その必要はない。ボールは、けられるか触れられたときインプレーとなる。